

府中市スポーツ推進計画 策定に関する提言

答申書 (案)

令和3年8月

府中市スポーツ推進計画検討協議会

はじめに

目 次

1 . 計画の骨子	1
(1) 計画の構成	1
(2) 施策を推進する 4 つの視点	1
2 . 提言	2
(1) 基本理念	2
ポイントとなる意見・議論の要点	2
提言	2
(2) 基本目標 1	3
ポイントとなる意見・議論の要点	3
提言	3
(3) 基本目標 2	3
ポイントとなる意見・議論の要点	4
提言	4
(4) 基本目標 3	5
ポイントとなる意見・議論の要点	5
提言	5
(5) 基本目標 4	6
ポイントとなる意見・議論の要点	6
提言	6
3 . 参考資料	7
(1) 府中市スポーツ推進計画検討協議会委員名簿	7
(2) 開催経過	8

1. 計画の骨子

(1) 計画の構成

基本理念	スポーツタウン府中の発展			
基本目標	1. 市民が主体的に参画する地域スポーツ活動の普及・促進	2. 多様な主体を対象としたスポーツ活動機会の充実	3. スポーツの場の整備・充実	4. 未来につながるスポーツ文化の形成

(2) 施策を推進する4つの視点

そだち・そだてる

スポーツを通して成長し、自分自身がスポーツを通して受けた恩恵を地域社会や次の世代へ引き継ぎ、分け与えることは、スポーツに関わる喜びを増大させることとなります。社会貢献をする人材・スポーツ団体の育成やボランティア活動を円滑にする仕組みづくりなど、「そだち・そだてる」視点で施策を推進します。

する

スポーツを「する」ことは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進に寄与し、元気で健康な生活を送ることができます。誰もがスポーツに触れあえる機会を提供し、スポーツを実施する場の整備を進めるなど、「する」視点で施策を推進します。

みる

スポーツイベントや大会・試合の観戦をはじめ、子供や友人が実施する競技の応援など、スポーツを「みる」ことは、楽しみや喜びを共感でき、自分自身がスポーツに親しむきっかけを生むことにもつながります。スポーツを見る機会の提供や、スポーツを通して楽しみや喜びを与えられるような取り組みを、「みる」視点で施策を推進します。

ささえる

スポーツに関わる人をサポートし、様々な手法・立場でスポーツ活動が発展していくよう「ささえる」ことは、スポーツの主役と同様に感動や興奮を共有でき、スポーツ文化を継続させることに寄与します。イベントの運営協力などを行うスポーツボランティア制度の充実や、企業や学校などの特性を活かした連携の強化など、「ささえる」視点で施策を推進します。

2 . 提言

(1) 基本理念

ポイントとなる意見・議論の要点

「スポーツタウン府中の発展」という基本理念を広く市民に周知していくべきである。

「スポーツタウン府中の発展」のイメージが湧く計画にしてほしい。

「市民がまちづくりに参加する」視点を大切にしたい。

提言（案）

府中市スポーツ推進計画の根幹となり計画の基本的な指針となる基本理念は、広く市民に周知していくことが重要であると考えます。現行計画から掲げられてきた「スポーツタウン府中」という標語を引き続き用いることで、市のスポーツ施策が一貫してスポーツがまちの日常生活の中にあることを示していくことが重要だと考えます。

「スポーツタウン府中」という標語については、まちのイメージを表す文章とともに図等を用いて、多くの市民がより具体的なイメージを持つことができるよう、計画で示していけるとよいと考えます。

府中市は「市民協働都市」を宣言し、市民と市が一体となって市民協働を推進し、積極的にまちづくりに参加していくこととしています。市民一人ひとりがスポーツを通してまちづくりに取り組み、地域課題の解決に取り組んでいくことも重要な視点だと考えます。本計画では、未来につながるスポーツ文化を形成していくという視点ももって、施策を推進していくことを期待します。

(2)基本目標 1 市民が主体的に参画する地域スポーツ活動の普及・促進

ポイントとなる意見・議論の要点

年齢や得意不得意等に関わらずだれもがスポーツに親しむことができるよう、地域の体制づくり、指導者の育成・活用が重要になる。
市民が地域で主体的にスポーツに参画するためには、スポーツ関係者の横のつながりを充実していくことも重要になるだろう。

提言（案）

市民が主体的にスポーツに参画できるような体制づくりや人材育成の取組を積極的に推進していくことを提言します。

子どもの頃から得意不得意に関わらず、スポーツに楽しさを感じることができるよう、学校だけでなく、家庭や地域で、また、多様な種目を楽しむことができる環境を整えていくことが重要になると考えます。そのためには、各種競技団体だけでなく、多様な団体や指導者、保護者が連携していくことが求められます。

スポーツ関係者が他の分野・団体等と横のつながりを構築し、情報等を共有し話し合いを重ねることで、協働により地域でのスポーツを促進していく土台ができていくとよいと考えます。

そうして、年齢や障害の有無等に関わらず、市民のだれもが主体的にスポーツに参画できる環境を充実していく施策を展開していくべきであると考えます。

(3) 基本目標 2 多様な主体を対象としたスポーツ活動機会の充実

ポイントとなる意見・議論の要点

市民の誰もが気軽にスポーツに参画できるよう、きっかけを充実していけるとよい。

地域コミュニティの最小単位は家族となる。家庭や身近なところからスポーツに関わるきっかけがあるとよい。

まずは障害者スポーツへの理解を促進していくことが重要になると感じる。

障害の有無に関わらず、一緒にスポーツを楽しむ視点も重要になる。

提言(案)

市民の誰もが身近な環境で気軽にスポーツに参画できるよう、きっかけづくりに積極的に推進していくことを提言します。

市民の誰もが気軽にスポーツを行うことを目指し施策を推進するには、まずは身近な人と一緒に楽しむ機会が多くあることが重要だと考えます。地域コミュニティの最小単位は家族であり、そこから学校や地域の団体等とつながっていくことで、スポーツを楽しみ、継続していくことができると考えます。

また、スポーツに対する関心や能力の度合いに関わらず誰もがスポーツを楽しむことができるよう、細かな配慮、工夫を行うことが重要になると考えます。そのためには多様な主体を対象にしたきっかけづくり、機会の充実に取り組んでいくことが求められます。

また、障害の有無に関わらず誰もが一緒にスポーツを楽しめる機会を充実していくことも重要な視点です。障害者に対する理解を促進するとともに、ともに楽しむことで共生社会の実現を目指していくことも施策を推進していくうえで、大切な視点になると考えます。

(4) 基本目標 3 スポーツの場の整備・充実

ポイントとなる意見・議論の要点

ライフステージやライフスタイル、障害の有無に関わらず誰もが身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりが重要である。

民間活力の導入について、ハード・ソフト両面で検討できるとよい。

学校部活動のあり方も変革期にある。学校と連携しながら地域のスポーツの場を充実していけるとよい。

提言(案)

市民が生活に身近な場所でスポーツに親しむことができるよう、「する」視点からスポーツの場の整備・充実を積極的に推進していくことを提言します。また、市民がスポーツへの関心を喚起していくために、「みる」視点からスポーツの場の整備・充実していくことについても積極的に推進していくことを提言します。

スポーツの場の整備・充実にあたっては市の公共施設全般の考え方との兼ね合いもあると思いますが、施設をだれがどのような使い方をすると、市民のスポーツへの関心喚起・行動変容を促していけるかということを念頭において施策を推進していくべきであると考えます。

また、施設の整備・充実については、民間活力の導入について積極的に検討を進めていくべきであると考えます。いわゆるハード整備では民間事業者との連携・協働が必要になると思いますが、施設の活用など、いわゆるソフト面ではNPO等の団体との関わり活用していくことが重要になると考えます。

(5) 基本目標 4 未来につながるスポーツ文化の形成

ポイントとなる意見・議論の要点

親子スポーツのニーズに対応できるとよい。
アフターコロナ・ウィズコロナを見据えた取組を検討できるとよい。
スポーツの無関心層へのアプローチを工夫できるとよい。行動変容につながる情報発信が重要になるのではないか。
市民がトップチーム・アスリートにふれる環境を一層充実していけるとよい。

提言(案)

市民にとってスポーツがより生活に身近なものになっていくことを見据え、地域が活性化し、まちの魅力が向上していくような、未来にわたって府中市のスポーツ文化をつくりあげていく、新たな施策を積極的に推進していくことを提言します。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、これまで通りスポーツを行うことができなくなったという声を協議会委員は市内各所で耳にしてきました。1人で行うスポーツ、家庭(親子)で行うスポーツ、ICTを活用したスポーツなど、ニューノーマルへの対応は今後、重要な視点になると考えます。また、こうした状況をふまえ、あらためて、求める人に適切なかたちで情報を提供し、単なるお知らせではなくて、より市民がスポーツに取り組もうと思えるような工夫も重要だと考えます。

学校での運動部活動のあり方が今後変革していくことを見据え、地域と連携する体制を拡充し、子どもの頃から地域でスポーツを親しむ環境を整えていくことも重要な視点です。また、学校や既存の競技団体等の枠組みだけでなく、アーバンスポーツやニュースポーツなど、新たなスポーツ文化となる取組も市民にとって身近なものとしていくことも重要であると考えます。

地域の連携という視点では、感動や憧れをきっかけに市民のスポーツへの関心を喚起していくために、府中市のトップチーム・アスリート等との連携・協働していくことも重要です。府中市をホームに位置付けるクラブ等と連携の場や機会を拡充し、スポーツ文化・コミュニティを醸成していったほしいと思います。

3. 参考資料

(1) 府中市スポーツ推進計画検討協議会委員名簿

(五十音順)

No.	所 属	ふり がな 氏 名
1	府中市社会福祉協議会	あさひ 朝日 マヤ
2	元東京農工大学名誉教授	うえたけ てる お 植竹 照雄
3	サントリーサンゴリアス	うえだ ゆう た 植田 悠太
4	(特非)府中市体育協会	こじま じゅいちろう 小島 壽一郎
5	公募市民	さとう み え こ 佐藤 美枝子
6	府中市立小中学校長会	さとう みつひろ 佐藤 光宏
7	公募市民	たくち ゆう き 田口 祐貴
8	明治大学教授	たかみね おさむ 高峰 修
9	白糸台体育館運営協議会	ほんだ じゅんこ 本田 純子
10	府中市スポーツ推進委員会	よしまつ く み こ 吉松 久美子

- 1 根拠 府中市附属機関の設置等に関する条例
府中市スポーツ推進計画検討協議会規則
- 2 定員 10人以内
- 3 任期 令和2年5月25日から令和4年5月24日(2年)

(2) 開催経過

	令和3年度	
	時 期	協議事項
第1回	令和2年 6月25日(木)	・スポーツ推進計画の進め方・スケジュール(案)について ・現行計画の評価・アンケート項目の検討
第2回	令和2年 8月24日(月)	・アンケート項目および実施対象の検討・決定
第3回	令和3年 1月19日(火)	・計画骨子の策定に向けて
第4回	令和3年 3月11日(木)	・計画骨子の策定に向けて
第5回	令和3年 5月11日(火)	・答申(案)の検討 ・計画骨子作成案の確認
第6回	令和3年 6月22日(火)	・答申(案)の検討 ・計画骨子作成案の確認
第7回	令和3年 8月17日(火)	・答申(案)の検討 ・計画骨子作成案の確認
第8回	令和3年 9月14日(火)	・答申案の提示・承認 ・パブリックコメントの説明 ・会長から教育長へ答申書の提出 ・クロージング
	令和3年 11月上旬から 1月上旬まで	・計画(案)の策定 ・パブリックコメントに関する府中市議会報告 ・パブリックコメントの実施・整理・報告 ・パブリックコメント意見に対する市の考え方についてまとめ ・計画の策定
	令和4年 1月上旬以降	・計画書の作成・校正
	1月中旬	・教育委員会報告
	1月下旬	・庁議報告
	1月下旬から 2月中旬まで	・計画に関する府中市議会報告 ・パブリックコメント結果及び計画策定について広報・HP掲載

